



秋に開催される「福祉音楽祭」。熊工OBのプラスバンドが懐かしい曲を演奏し、高齢者を楽しませた



10月に開催される「校区運動会」。40年の歴史を持ち、仮装行列なども人気だ



8月に壺川小学校で開催される「壺川校区夏祭り」。幅広い年齢が集まり、ふれあいを楽しむ



河川敷のプレイパーク。平成25年に10周年を迎え、新しい看板が作られた



3つの地域の特徴を歌詞に織り込んだ「壺川ふるさと音頭」。振り付けも完成し、小学校などに配布された



壺川校区自治協議会の主海偉佐雄会長

85歳以上の高齢者は平成16年に198人だったのが、平成25年には349人まで増加しています。お年寄りの数は増える一方なのに対して、老人会加入者は減少。校区でも社会福祉協議会を中心にさまざまな高齢者支援を行い、そのための組織づくりとして、平成22年には校区内17の町内自治会から2名ずつ参加して「高齢者福祉活動推進部会」が結成されました。部会に集まったのは、40〜70代の幅広い年齢層。率先して、町内ごとの見回りを行うなどの活動を始めています。

また、校区内にある中央在宅

壺川校区 (平成25年4月現在)

人口計:7,764人
世帯数:3,928世帯
町内自治会数:17



福祉センターを拠点に孤独死対策や認知症のお年寄りへの支援にも力を尽くしています。毎年秋に中央在宅福祉センターで「福祉音楽祭」を開催。そのほか、地域コミュニティセンター主催の「ふれあい文化祭」、8月の「壺川校区夏祭り」、10月の「校区運動会」など、地域で楽しみにされている毎年の行事も一緒に参加しています。

「子どもからお年寄りまでがいきいきと暮らせる地域づくりを積極的に進めたい」と主海さんは熱い思いを語ってくれました。

壺川校区をまとめるには大きな役割を果たしています。河川敷を活用した「壺川校区ふれあい農園」が、住民交流のきっかけになりました。地域の人たちが農園として耕したのが10年ほど前。現在では、20人ほどの「農園プロジェクトチーム」がこの農園を管理しています。チームの中心メンバーである平橋祐子さんは「地域のつながりをもっと強くしたいと思ったのが、農園づくりのきっかけになりました。今では、農園という世代を超えた住民共通の話題ができ、地域の人が顔見知りになつてきたな、と感じます」と語ります。

毎年春と秋には収穫祭を開催。ジャガイモやタマネギなどを地域の子ももちと収穫します。毎回の参加者は、地域の子もたちや家族連れの他、地元消防団や高校生ボランティアなど、150人を超え、収穫物は参加者で分けあったり、高齢者が集う「いきいきサロン」での給食に使われたりしています。「天

校区みんなで高齢者を支える仕組みを

ある日

主海さんが心を痛めた出来事がありました。

「お年寄りの孤独死があったんです。前日の夕方には元気な姿を近所の人が見ていたものの、翌朝になって近所の人が異変に気づいた時にはもう手遅れでした」。壺川校区でも高齢化が進み、

候などの影響で収穫量が変わったり、ニンジンの葉を初めて知る人がいたり、食育の場にもなっていると感じます。活動を通して、地域の上の世代が若いお母さんや子どもたちに、いろいろなことを伝えることができた」と平橋さんは言います。

また、主海さんは「地域づくりの第一歩は、地域の人たちの心一つにまとめること。これからは、今まで参加してなかった人たちも行事に喜んで来てもらえるように知恵を絞らなくてはなりません」と話してくれました。